



Pick Up News

朝晩の寒暖差が大きくなり、一気に秋らしさを感じる季節になってきました。体調を崩しやすい時期でもあるので、しっかり食べて、休んで、冬に向けて心と体の準備をしていきましょう。これからの数ヶ月は、卒業・修了、そして進級に向けてとても大切な時期です。自分なりの目標を決めて、一つひとつクリアしていきましょう。大学としても「留年や退学をできるだけ減らそう」と取り組んでいます。どんなことがあっても、あきらめずに卒業をめざして頑張ってください。建築学科には、教学アドバイザーの先生方をはじめ、授業を担当している先生方も相談に乗ってくれます。仲間や先輩を頼るのも大事なことです。勉強や生活でうまくいかないことがあって、悩んだり苦しくなったりする時は、大学の保健室やカウンセラーに相談するのもOKです。解決できる方法は必ずありますから、一人で抱え込まずに、前に進んでいきましょう。



Please follow us!
在学生が学生目線で情報発信しています。

中学生・高校生「未来のエスキースを描く」コンクールを開催しました

第40回を迎える「東北建築フォーラム」は、これまで開催してきた「東北の建築を描く展」を発展的に継承し、新たにアイデアコンペ『中学生・高校生「未来のエスキースを描く」コンクール』として開催しました。テーマは「自分が思い描く未来の建築やまち」。参加したみなさんは、自由な発想でアイデアをスケッチに込め、未来の風景をのびのびとデザインしました。描かれた作品には、身近な暮らしを楽しむ工夫や、地球環境への思いやり、そして「こんな建物が本当にあつたらいいな!」と思わせるユニークな発想があらわれていました。会場では、作品を前に熱心に語り合う姿も見られ、審査員も参加者の柔軟な創造力に感心していました。

このコンクールが、建築やデザインの世界に興味をもつきっかけとなり、未来への夢につながっていくことを心から願っています。来年も引き続き開催します。皆さんの新たな作品に出会えることを楽しみにしています。(下の写真は表彰式の様子と受賞作品)



未来へつながる一歩 中原大学(台湾)短期留学レポート

台湾の中原大学に留学している学生から、さっそく滞在先での活動報告が届きました。

台湾滞在の最初の三日間は、中原大学の先生のご案内で台湾各地の著名な建築物や街並みを拝見し、文化や建築に対する考え方の違いを学ぶ貴重な機会となりました。

現在は卒業設計のエスキス作成を中心に活動しており、9月末には2つの研究室合同で卒業設計のテーマ発表を行いました。現地では英語や簡単な中国語、翻訳機を活用しながらコミュニケーションを図っています。食文化や交通機関など、日本との違いに驚くこともありますが、台湾の方々には皆さま大変親切で、様々な面で温かくサポートしてくださるため、安全で充実した留学生活を送ることができています。(建築学科4年・清水 健太)



Pick Up Lab.

錦織研究室では、親子調査やその模型作りを中心に活動しています。イベントとして、学生自ら企画したバス旅行を年に2度ほど開催しています。今年の7月には秋保・岩沼方面に行きました。陶芸体験を通じて秋保の自然を感じながらコップやお皿を制作したり、JOCA東北や竹駒神社の見学を通じて地域の拠点施設の在り方を学びました。忙しい学生生活の中でも、実際に足を運んで体感できる良い機会となりました。

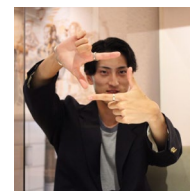
3年生は研究室配属後、早速調査に参加したり先輩から研究や設計に必要なスキルを教わったりします。4年生は卒業設計に向けたゼミに夏休みから取り組んでいます。学生同士で自主的にゼミやコンペをしたりパーティーを開いたり、学年関係なく仲のいい雰囲気です。(錦織研・山下 雛)



研修の様子(陶芸体験)



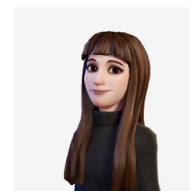
研修の様子(バス旅行)



3年 菅野 優祐 さん
仙台大附属明成高校 出身

Pick Up Student

入学当初は基礎科目(特に物理)に苦戦しましたが、周りの友人に教えてもらいながらなんとか単位を取れました。それ以降は本格的に設計課題に力を注ぐことができ、優秀作品に選んでいただくことも経験しました。まだまだ使って見たいソフトや作ってみたい建物があるのでソフトの上達、プレゼンにおいて伝える能力も高めていこうと思います。また、長期インターンシップ「TONKAN」にもスタートアップメンバーとして参加し、現在も活動を続けています。企画〜運営までの貴重なフェーズを経験できました。現在は、齋藤研究室に配属となり、今後は意匠・計画分野を重点的に学んでいきます。大学院進学の手配で更なる高みを目指して頑張っていこうと思います。



2年 松村 佳奏 さん
古川工業高校 出身

Pick Up Student

建築学科に入学して1年半が経ちました。現在は初めての集合住宅設計として、15住戸のプランニングに取り組んでおり、設計力や思考の幅が着実に磨かれているのを感じます。課題は多く、楽しいことばかりではありませんが、だからこそ計画的に行動し、物事を段階的に進めていく力が培われてきました。忙しさの中にこそ、建築を学ぶ手応えと充実感があります。その一方で、限られた時間の中でもピアノを弾いたり、編み物をしたり、ランニングをしたりと、多趣味な自分らしさも大切にしています。建築の学びには、困難さと奥深い面白さの両方があり、それを日々実感しながら取り組んでいます。